

「フリースクール等に関するモデル事業」 情報交換会資料（令和7年1月31日（金）実施）

フリースクール等による活動・取組の好事例

フリースクール等と学校の効果的な情報共有

☆フリースクールでの指導を行う上での在籍校との連携☆

1 取組内容

①入会に当たっての学校への報告

- 学校へは運営方針と学習指導について学校長あてメールで連絡をした上で管理職と話をする。その時の対応は様々であるが、実際に学校へ出向き説明をしたり、直接校長、教頭がお見えになり、子どもの様子を見学するとともに、実際にどのように学習を進めているかを確認された。

②日常の活動の様子の見学の受入れ

- 校長先生だけでなく、担任の先生や養護の先生など、子どもの様子を見学希望がある場合は、保護者や子どもに確認した上で随時受け入れた。

③活動記録の報告

- 子どもの学習等の様子や内容は毎日記録し、月末の出席統計処理に間に合うよう報告した。

④定期テストや実力テストの実施

- 定期テストをペガサスで受けたいと希望した場合、保護者から学校へ連絡すると同時にペガサスからも前例を紹介して受け入れができることを連絡した。
- 定期テストを受けた中学生は5校6人であった。

2 取組の必要性

- 保護者へのアンケート調査の結果、フリースクールを選ぶときに重視したものとしてトップに挙げられているものが「学校との連携」であった。
- また、学校へのアンケート調査において、学校とフリースクールとの連携を図る上で必要なこととして、「定期的な学校への報告と担任が子どもの様子を見学に行く」など相互に緊密な連携を図ることを必要としている。
- 定期テストは学校でも別室受験の形で配慮はされているが、学校へ行くことができず受けられない子どももいる。そのような子どもにとってフリースクールで受けられることは学習の評価をしてもらえる貴重な機会になっている。

フリースクール等による活動・取組の好事例

フリースクール等と学校の効果的な情報共有

☆フリースクールでの指導を行う上での在籍校との連携☆

3 今後の課題

- 入会に際し学校で校長先生、担任の先生、保護者とフリースクール指導者の四者で入会後のすすめ方について話し合いを持った学校があった。すべての学校で入会時にそのような話し合いを設けることは難しいと思うが、入会後の学校との連携を密にすることを考えると保護者や学校が希望に応じ、そのような会を持つことを考えていく必要がある。
- 学校アンケートの中で、学校との定期的な連絡が望まれていることがわかる。フリースクール側が子どもたちの在籍校に定期的に出向き、打ち合わせをするのが理想かも知れないが、人員的にも時間的にも大変難しい。そこで、フリースクールを会場に定期的に学校との意見交換会の日を設け、出席できる学校に来ていただく形式を模索する。

フリースクール等による活動・取組の好事例

フリースクール等と学校の効果的な情報共有

☆児童生徒の評価や評定に生かせる報告内容の検討☆

1 取組内容

①近隣校でのヒアリングの実施

■外部の機関での学習成果を評価することについて学校としてどのようなことが必要と考えているのかを近隣の中学校に聞いた。

②ペガサスに通ってきている子どもの在籍校へのアンケートの実施

- 8月にあった学校教育法施行規則の改正に伴い、不登校児童生徒の成績評価を行うにあたって、文部科学大臣が定める要件の下で、欠席中に行った学習の成果を考慮することができるようになった。
- これに伴い、学校としてフリースクールに通っている子どもの成績の扱いをどのように考えているのかをアンケート調査した。

2 取組の必要性

- 外部の機関での学習の成果を成績評価に生かすためには、①学習の計画・内容が、不登校児童生徒の在籍する学校の教育課程に照らし適切と認められること、②学校と不登校児童生徒の保護者、教育支援センター、民間団体等との間に十分な連携協力関係が保たれているとともに、学校において、学習活動の状況等の当該不登校児童生徒の状況を保護者等を通じて定期的かつ継続的に把握していること、③学校が、訪問による対面指導等により、学習の状況等の不登校児童生徒の状況を定期的かつ継続的に把握するとともに、不登校児童生徒と学校との適切な関わりを維持するよう留意していることの3つの要件が示されていることから、その要件に合致する取り組みが求められる。
- フリースクールでの学習指導が学習指導要領に沿ったものであり、成果がより客観的なものとして学校へ提供できることにより、当該校に在籍する他の子どもと同様な成績評価が可能になる。

フリースクール等による活動・取組の好事例

フリースクール等と学校の効果的な情報共有

☆児童生徒の評価や評定に生かせる報告内容の検討☆

3 今後の課題

- 学校からは成績評価の対象として定期テストなどが挙げられている。今後、フリースクールに通う子どもたちがそれぞれの学校の定期テストを学校に通っている子どもたちと同様に受けられるようにすることが必要である。そのためにも学校の教育課程に照らしフリースクールでの指導計画や内容が適正であることを確認できるようにする方策を考えていく必要がある。
- 前項の繰り返しになるが、学校との定期的な話し合いの場を設け、子どもの状況を伝えられる場の設定をしていく必要がある。
- 実技を伴う教科の成績評価をするためにどのようにしていくのがよいか学校との協議をする必要がある。

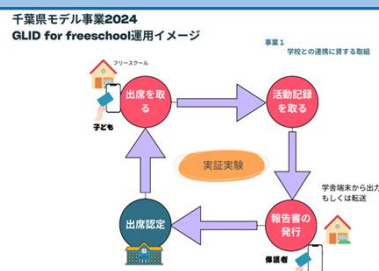
フリースクール等による活動・取組の好事例

フリースクール等と学校の効果的な情報共有

1 取組内容

フリースクールと学校との情報共有媒体の提案

一般社団法人 学習圏開発機構LeSDAさんが開発した個人別活動ポートフォリオ作成アプリ（『GLID for freeschool』）を使用し、フリースクール活動の記録と出席報告について、連携が簡便な方法としてメールで学校に情報提供する実証実験を行った。



②活動記録の報告

アプリ使用の経過を示す。

〔8月〕試用アプリのダウンロード、スタッフのメールの登録作業を行う。スタッフがLeSDA社員から使用のためのレクチャーを受ける。

〔9月〕活動の記録を開始（スタッフ全員）。アプリのバグ、使用が難しい点について情報共有し、LeSDAさんにはアプリの修正作業を行っていただいた。スタッフ、LeSDA社員が協力し、実証実験の実施期間は上記の工程を随時行った。同月、学校へのメールでの転送作業を試みたところ、画像データがメールに添付できる容量を超えてしまったことから送信不可となる。

〔10月〕解決策を講じるためLeSDAさんと情報共有、打合わせを重ねる。

〔11月〕応急措置として活動内容（画像）と出席報告書をアプリ内で分け、学校には出席報告書（1紙面）だけを送信する手続きを取ることにした。

〔12月〕データ転送の困難さについて、LeSDAさんに調査いただいたところ当初受信側（学校）のデータ制限の問題もあるかと思われたが、送信側サーバーエラーであり、データ容量が大きいたことが課題であることが判明した。

〔1月〕以上の状況から、アプリにデータ圧縮機能の追加について検討いただき、アプリを修正していただいております。現在アップストアへのリリース待ちの状況となっている。また、本実証実験において、学校には保護者から直接または書面でお伝えさせていただいた。一校には簡単なリアリングを行い、メールでの連携の簡便さについて好評を得ている。



2 取組の必要性

今回LeSDAさんによるアンケート結果から、アプリ使用前は73.2%の保護者が書面で手渡ししていたことがわかった。これは保護者が出席報告のために学校に向かなければならないことを意味し、保護者負担の大きさが伺える。連携アプリの利用は、そうした保護者、マンパワー不足のフリースクール、期日内に出席日数の確認を要する学校にとって、簡便でスムーズに情報共有が図られるための有効な手段となり得る。また、活動内容を随時入力することはフリースクール側の手間となるが、単に出席日の記録にとどまらず、子どもの活動時の様子については子どものポートフォリオとしてのデータ蓄積には大きな意味があると考えられる。

3 今後の課題

どこまでの情報を連携と考えるのかという議論なしに、連携が進められている点が大きな課題である。

フリースクール等による活動・取組の好事例

フリースクール等と学校の効果的な情報共有

1 取組内容

①入会に当たっての説明

本校では、基本的に、ご入会前に、在籍小学校の教頭もしくは校長と電話にて以下について連携を行なっております。

①本校（FIS）のご説明

→スクールの概要と実施内容、出席振替の実績などについてもご案内を行います。
また、ご入学に向けて、子供が在籍する地元小学校が必要としている情報についての提供を行います。

②小学校との今後の連携内容についての合意

→出席日数や、本校在籍に伴い、地元小学校が求めている情報提供に関する合意を行います。
(提示内容、提示方法、頻度等)

②活動記録の報告

本校では、毎月事務局から各学校宛、もしくは保護者宛に、以下の書類（①②）をメール等で送付しております。
また、ご希望がある学校に関しては、保護者から、スクールでの活動レポートをプリントアウトして提示してもらっています。（活動レポートは、本校から保護者の方々へ日々の活動の様子ををオンラインで提示しているものです。
そのため、必要がある方は、保護者から小学校へ直接お渡しいただいております。）

①出席表

②毎月の授業スケジュール

2 取組の必要性

公立小学校の先生たちの中には、フリースクールの存在（もしくは詳細）をご存知ない方々も多くいらっしゃいます。我々も、子供たちが本校に通い始める際には、小学校の先生たちのご質問に、詳細に答えていくところからスタートいたします。

そういったコミュニケーションを経て、初めて、本校についての理解をいただけていくことができます。
このような取り組みがなければ、双方に理解し合えることはなく、公立小学校の中での理解にもつながっていきません。一人の子供が本校に通う実績が、学校全体の実績になり、2人目以降の子供たちの登校は、非常に楽になっていきます。

3 今後の課題

我々は、オルタナティブスクールという観点から、以下2点の課題を提示いたします。

①“質”の問題：フリースクールも“質”の高いサービスを提供する必要がある！

公教育以外の学びの場が選択できるようになっていく上で、子供たちへの関わりの“質”は非常に重要になると考えます。選択肢が広がることは、子供たちにとって、世の中にとって、非常に有益なことと考えますが、子供たちの可能性を潰してしまうような世の中にはなってはいけないと考えています。

そのために、子供たちへの“関わりの質”、また“学びの質”などが担保される必要があると考えます。

今後、公的資金が投入されていく中で、フリースクールの“質”に関して補償される仕組みを担保することが、最も課題であると考えます。

②費用の問題：教育は無料で受けられるものという概念

公教育中心の世の中では、教育は無料で受けられるものという概念があります。そのため、そもそも高額な費用を支払い、フリースクールに通うと言う概念は、一般家庭にはありません。そのため、どこのフリースクールも、運営費は切迫しています。現場スタッフもボランティア、もしくはギリギリの配置、給料で行なっていることがほとんどです。①でも述べたように、子供たちへの関わりの質を担保していく必要がある中、費用面の問題は非常に大きく、また、学校との連携なども求められ、スタッフは、子供たちのためにと、学校との対応についても真摯に取り組んでくれています。今後、質の高いフリースクールが展開していくためにも、公費の使い方については、熟考していく必要があると考えます。

フリースクール等による活動・取組の好事例

フリースクール等と学校の効果的な情報共有

1 取組内容

①入会に当たっての説明

本校では、ご入会前の保護者の皆様に対して、以下について連携を行なっております。

①ご入学前説明会(オンライン)

→お問合せをいただいた後、まずはオンラインでのご状況のヒヤリングと、本校の詳細についてお話をさせていただいております。

②ご入学前体験授業(リアル：1～5日)

→①で本校の方針にご賛同頂きました皆様に限りまして、体験授業のご案内をしております。現在は、小1のみご入学を受付させていただいております。

③ご入学意思確認面談(オンライン)

→ご入学意思確認後、各種お手続きや学校との連携についてお伝えしています。

②活動記録の報告 保護者とのコミュニケーションについて

本校では、保護者向けに、随時以下のコミュニケーションを取っております。

なお、ご入学時には、共通の保護者向けトレーニング(約3ヶ月)を用意しており、必須でご受講をいただいております。

①入学時：保護者向け必須トレーニング(3ヶ月)

①随時：ご家庭の状況、及び地元小学校についての状況についての情報共有
(FISとして対応の必要があれば対応をします)

②月2回：保護者向け勉強会、保護者との交流

→オンラインで夜の時間帯(21:00-23:00)に行っております。

③半期ごと：個別面談

(現状のお悩み相談や進路の相談)

その他：学校授業の公開や、イベントへの自由参加等いつでも保護者の方がスクールへ来れる環境は用意しております。(ご来校いただく保護者は限られており、全員の保護者が活用されているわけではありません。)

2 取組の必要性

本校の教育を受けていただく上で、ご家庭の協力は必須です。

子供達の成長を、根本から支えていくのは、学校ではなく、各ご家庭であるためです。

本校としては、子供たちへの最善の関わりを行っては参りますが、各ご家庭での子供たちへの対応が変わらなければ、子供たちが、スクールでどんなに成長の兆しを見せたところで、その成長は引き戻されてしまいます。

そのため、本校では、保護者の学びを必須にし、子供たちと共に、大人も成長していく環境を提供しています。

もちろん、各ご家庭での子供への対応が変わり、劇的な成長を遂げていく子供たちも居ますが、一方で、なかなか変わらないご家庭があるのも事実です。私たちは、継続して保護者の皆様へ働きかけ、子供達の成長を共に支えていく役割が大きいと考えております。

3 今後の課題

我々は、オルタナティブスクールという観点から、以下2点の課題を提示いたします。

①“質”の問題：フリースクールも“質”の高いサービスを提供する必要がある！

公教育以外の学びの場が選択できるようになっていく上で、子供たちへの関わりの“質”は非常に重要になると考えます。選択肢が広がることは、子供たちにとって、世の中にとって、非常に有益なことと考えますが、子供たちの可能性を潰してしまうような世の中にはなってはいけないと考えています。

そのために、子供たちへの“関わりの質”、また“学びの質”などが担保される必要があると考えます。

今後、公的資金が投入されていく中で、フリースクールの“質”に関して補償される仕組みを担保することが、最も課題であると考えます。

②費用の問題：教育は無料で受けられるものという概念

公教育中心の世の中では、教育は無料で受けられるものという概念があります。そのため、そもそも高額な費用を支払い、フリースクールに通うと言う概念は、一般家庭にはありません。そのため、どこのフリースクールも、運営費は切迫しています。現場スタッフもボランティア、もしくはギリギリの配置、給料で行なっていることがほとんどです。①でも述べたように、子供たちへの関わりの質を担保していく必要がある中、費用面の問題は非常に大きく、また、学校との連携なども求められ、スタッフは、子供たちのためにと、学校との対応についても真摯に取り組んでくれています。今後、質の高いフリースクールが展開していくためにも、公費の使い方については、熟考していく必要があると考えます。

参考：フリースクール等と学校との連携一覧

No	連携機関	タイミング	方法	実施者	実施内容
1	FIS 一保護者との 連携	FISご入学前	対面	FIS理事長青沼 保護者	①ご入学前説明会(オンライン) ②ご入学前体験授業(リアル：1～5日) ③ご入学意思確認面談(オンライン) →ご入学意思確認後、各種手続きや学校との連携についてお伝えしています。
		FIS在籍中 (随時)	対面 メッセージ	FIS事務担当 保護者	①随時：ご家庭の状況、及び地元小学校についての状況についての情報共有 (FISとして対応の必要があれば対応をします) ②月2回：保護者勉強会での保護者との交流 ③半期ごと：個別面談 (現状のお悩み相談や進路の相談)
2	保護者 一地元小学校 との連携	FISご入学前	面談	保護者 担任、教頭、 もしくは校長	①地元小学校へ、FISご入学の意思をご報告 *1:FISのスクールガイド、理事長名刺、FIS Flyerなどの参考書類も一緒にお渡ししています ②FIS入学後の小学校との関わりについてのご相談 (登校日数や日々の小学校との関わりについてなど) ③FISの連絡先の提示(学校側からFISへご連絡をいただけるようお願いしております)
		FIS在籍中 (随時)	対面	保護者 担任、教頭、 もしくは校長	①定期的な学校訪問(子どもの状況に合わせて各ご家庭ごとに調整いただいております) ②スクールの活動内容についてのご報告 *2:FISの日々の活動レポートを学校へご提出いただくことも可能です
3	FIS 一地元小学校 との連携	ご入学前	電話	FIS理事長青沼 校長、もしくは 教頭	①FISのご説明 →スクールの概要と実施内容、出席振替の実績などについてもご案内、地元小学校が必要としている情報の提供を行います ②小学校との今後の連携内容について(出席日数や地元小学校が求めている情報などの共有) ③出席の振替についてのご相談など
		FIS在籍中 (初期)	対面	FIS理事長青沼 校長、もしくは 教頭	①校長先生のFIS視察 校長先生がFISへ視察にいらしてくださる場合もございます。 その場合には、スクールで実施している内容等について、子どもたちの様子を説明しながらご案内させていただきます。
		FIS在籍中 (毎月)	メール	FIS事務局 →各学校	①出席提出 ②毎月の授業スケジュールの提示

フリースクール等による活動・取組の好事例

フリースクール等と学校の効果的な情報共有

1 取組内容

入会に当たっての説明

児童生徒の入会があった場合、以下の①～③の順で学校へご説明しております。

- ①学校へ電話連絡（入会があったこと・学校訪問にてご説明したい旨）
- ②学校訪問（弊団体について・カリキュラム・希望している登校頻度・保護者と本人の学校連携の希望）
- ③管理職・担任来所（場所の確認と学習している様子の見学）

③については、学校によります。茂原市は教育委員会の訪問もありました。

活動記録の報告

学校への活動報告は、

- ①月末の報告書の提出
 - ②タブレット（一人一台端末）にて担任への報告
- の2つの方法にて行っております。

来所した際には、日にち・学習した教科・使用した教材・指導内容を記録しています。

活動記録の報告

中学校 さん 担任の先生へ
今月の さんの活動の報告になります。

学習の記録

指導日時	指導教科	教材	指導内容
12月4日	数学	教科書・ワーク	文章から文字式を作ったり、文字式のきまりにしたがって×や÷を省略して表すことができました。で表すことができました。
12月11日	数学	教科書・ワーク	仮平均の仕組みを理解して、自分でどんどん解いていきました。
12月13日	数学	ワーク	「文字式」文字式のきまりと式の値のやり方を覚え、練習しました。
12月18日	音楽		ピアノでホールニューワールド、人生のメリーゴーランドなどの曲を練習しました。
12月20日	数学	教科書・ワーク	「文字式」文字式のきまりと式の値のやり方を覚え、練習しました。
12月23日	数学	教科書・ワーク	文章題から文字式を作る問題を行いました。

活動の様子

お世話になっております。12月のフリースクールでの様子についてお伝えいたします。
12月は6回の活動に参加しました。今月はマイプロジェクトという午後の活動の時間の中で、ピアノの練習をしました。3曲弾けるようになり、本人も自信をつけていました。学習では、数学を特に頑張りました。1年生の内容ではありますが、文字と式の学習を終え、応用問題にも挑戦する姿勢が見られました。1月から、新しい単元に取り組んでいくことになります。また、担任の先生より、お借りしましたタブレットを用いて、登校した時と、学習した内容をクラスルームにメッセージを送るようにしています。今後とも、連携を取って行けたらと思います。よろしくをお願いします。

月末に、メールにてPDF（パスワード付き）を送付しております。
パスワードは、メール送信後お電話にて学校へお伝えしております。

Googleクラスルームについて

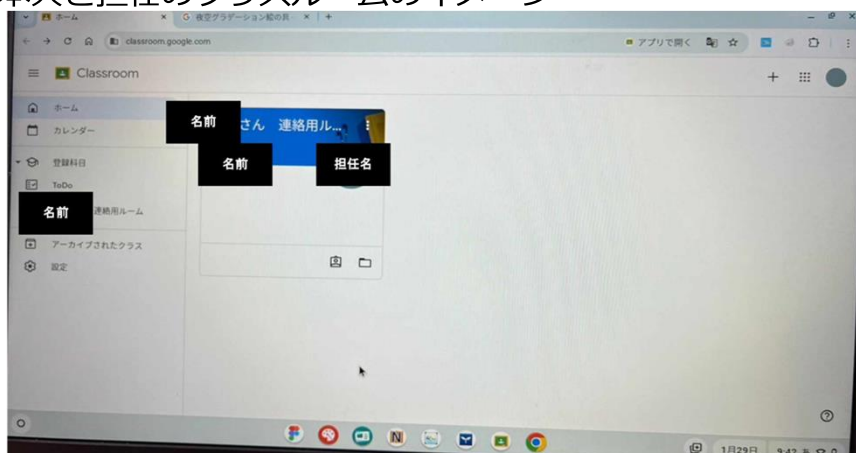
実施できたのは、中学生1名でした。
 (他の児童生徒は学校へ登校している日もあり、行いませんでした。)

生徒本人と担任の2名のみのクラスルームを、担任の先生に作成いただき、登校した際には生徒本人よりその旨と学習内容を報告していました。

タブレットは、フリースクール内にて保管管理しております。
 (忘れることが多い・家で使うことがないため)

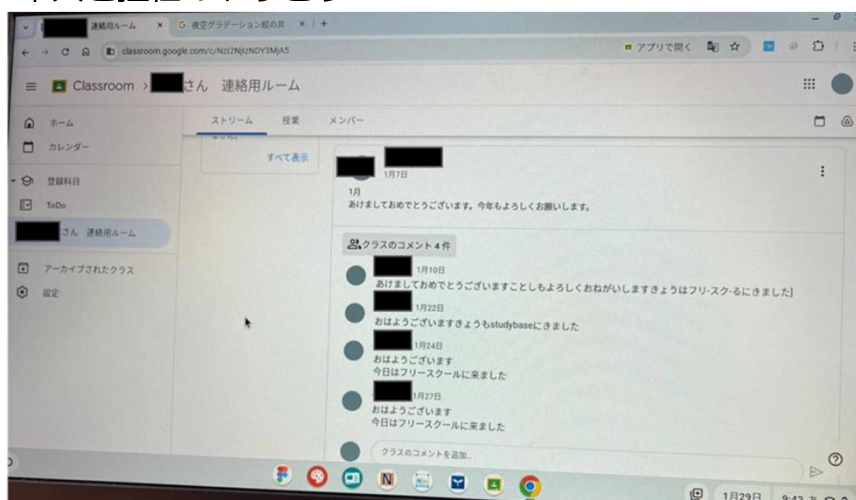
Googleクラスルームの例①

本人と担任のクラスルームのイメージ



Googleクラスルームの例②

本人と担任のやりとり



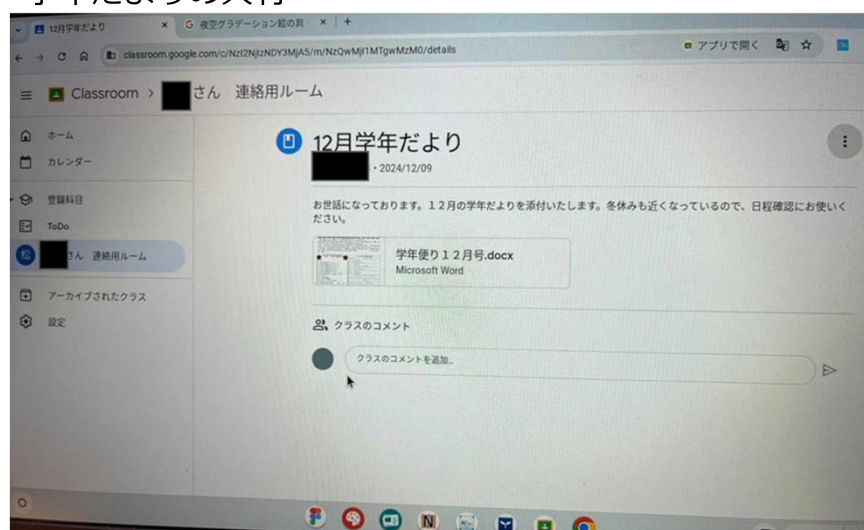
Googleクラスルームの例③

学習内容



Googleクラスルームの例④

学年だよりの共有



2 取組の必要性

2つの方法で報告することで、以下のメリットがあると考えます。

- ①担任（または担当教員）が生徒の様子を把握しやすい。
- ②タブレットを用いることで、写真にて学習内容や様子を伝えられる。
- ③要録上の登校扱いとなる場合の根拠となる。

なかなかフリースクール内での活動を学校へ見える化することが難しいのですが、できる限り児童生徒の情報をお伝えできるよう努めております。

3 今後の課題

①評価に反映していくための適切な共有内容について

「評価」となると学校が児童生徒を理解するために多くの情報が必要になるかと思いますが、どんな情報をお伝えすればよりよく伝わるのか、課題に感じています。

②全教科担任へ共有していく難しさ

特に中学校は、1人に関わる教員の数が多いため、限られた業務時間の中で情報共有をしていく難しさがあると、管理職との対話の中で気づきました。

来年度に向けて

「評価」へつなげていくために、学校で使っている教科書・ワークを基準に取り組み、サポート教材としてオンライン教材の導入も検討しております。

また、引き続き、教育委員会との連携による活動も取り入れていこうと考えております。



フリースクール等による活動・取組の好事例

フリースクール等と学校・教育委員会との協力による児童生徒の社会的自立に資する取組

1 取組内容

①プログラミング的思考を育む実践的な授業

目的：実際にロボットを動かして、プログラミングの楽しみを感じる
算数・数学との関連にも触れ、学習にも繋がりを持つ

内容：STEAMアカデミー（プログラミング教室）協力のもと、
木更津市や千葉市の小学校でも採用されているロボット教材を
使用して授業を実施する。

①ロボットを思い通りに動かしてみよう

目的地までの道筋を考えてブロックを置く
順次処理や反復処理などプログラミングの基礎を学ぶ

②①で学習した内容を人に伝えよう

地域のお祭りにプログラミング体験ブースを出展して、
小学校低学年や未就学児にフリースクールの生徒たちが教える。

③プログラミングによる多角形の描画と角度の学習（5,6年生対象）

三角形や多角形の学習をしたのちに図形に取り組む
算数とプログラミングの関連性を感じ、アートにする
「繰り返し」を用いて、プログラミング的な思考も深める

使用教材 マタタラボ



使用教材 VinciBot



2 取組の必要性

- 小学校でも必修となりこれから必要とされるプログラミング的思考を育む機会となる
- 画面上だけでなく、実際にロボット動かすことによって学習に抵抗感のある生徒が多い、フリースクールでも児童生徒の興味関心を掻き立てることができる。

3 実際の取組 ③プログラミングによる多角形の描画と角度の学習



プログラミングde算数

2024年11月11日
YUME School

さあ、プログラミングしよう！



今日のプログラミングのパートナーは！？



ヴィンチボット
VinciBot

プログラミングのじゅんび



1. タブレットでプログラミングツールの立ち上げ
2. ヴィンチボット
の電げんをオンにする
3. VinciBotとタブレットをコネクションする

Vinci Botを動かしてみよう



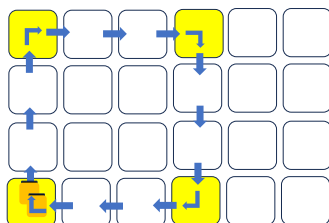
いろんなブロックをつなげて
どんなことが出来るか
ためてみよう！



れんしゅう(1)



マップを使って、動かしてみる

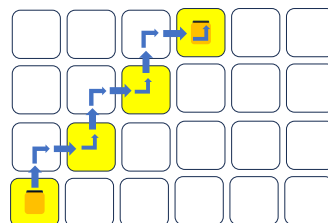


使うのは
この3つの
ブロックだけ

れんしゅう(2)



マップを使って、動かしてみる



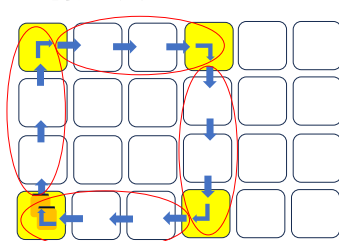
使うのは
この3つの
ブロックだけ

れんしゅう(3)



マップを使って、動かしてみる

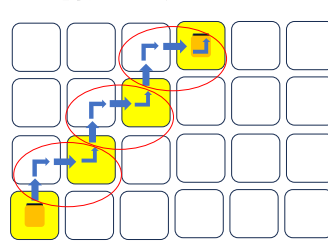
くり返し(ループ)



れんしゅう(4)



くり返しを使ってみよう！ どこがくり返し？

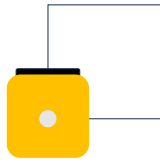


3 実際の取組 ③プログラミングによる多角形の描画と角度の学習

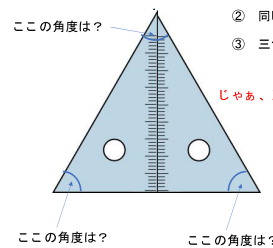
Vinci Botに図形をかかせよう



正方形をかいてみよう！



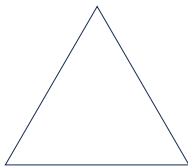
正三角形ってなんだっけ？



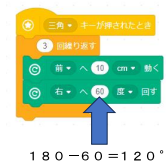
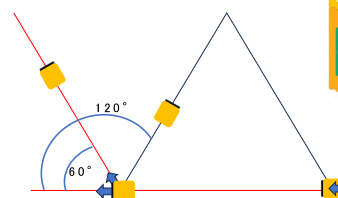
- ① 3つの辺の長さが同じ
- ② 同じ三角定規2枚で作れる
- ③ 三つの角がみんな60°

じゃあ、正三角形をかいてみよう！

Vinci Botに正三角形をかかせよう



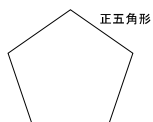
失敗の原いんを考えよう！ バグはどこだ！



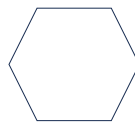
Vinci Botにいろんな形をかかせよう



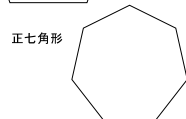
正多角形の形 正三角形 正四角形 正五角形 正六角形 正七角形 正八角形
回す角の大きさ



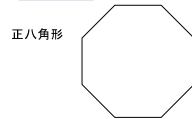
正五角形



正六角形

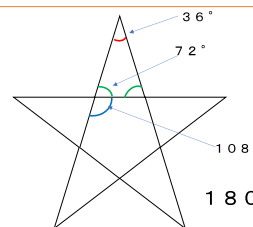


正七角形



正八角形

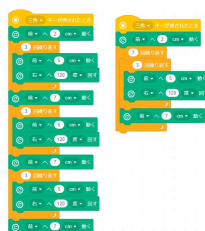
星形のかきかた



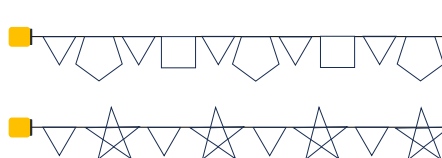
$$180 - 72 - 72 = 36^\circ$$

VinciBotの回転する角は
 $180 - 36 = \boxed{}$

Vinci Botでデコレーション



Vinci Botでデコレーション





- 学習・算数に苦手意識が強い生徒も参加していたが、
図形が上手に描けるように何度も試行錯誤しながら主体的に取り組むことができた。
- 実施後以前よりも学習への意欲も増した。



3 今後の課題

- 専門性が高い授業のため継続して実施するには費用がかかる。
- 学習進度によってある程度対象を絞らなくてはならないため在籍の少ない学年では実施が難しい。
- 回数を重ねることで興味関心が薄れていく生徒がいるため、興味関心を継続する工夫が必要となる